

気候変動対策

全世界で取り組む地球規模の課題解決に向けて



※SDGsの17の目標のうち、関連の強いものを表しています。

気候変動問題は、自然生態系や社会・経済を含む人類の生活基盤全体に影響を及ぼします。経済成長や貧困削減、人間の安全保障に対する脅威となるものであり、世界全体で取り組んでいくべき重要な課題です。

JICAでは、さまざまなセクターの事業において気候変動への配慮を組み込み、多様な支援スキームを駆使して各国のニーズに応じた気候変動対策の支援をしています。

● 課題の概要とJICAの取り組み

2015年12月、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)において、京都議定書に代わる2020年以降の新たな気候変動対策の国際的枠組みとなる「パリ協定」が採択され、世界は新たな一歩を踏み出しました。持続可能な開発目標(SDGs)のなかでも、「気候変動への対処」はゴールの一つとなっています。気候変動問題は、異常気象や自然災害の増加などさまざまな現象をもたらしています。

JICAは次の4つの重点取組課題に沿って、気候変動対策の支援を実施しています。

1. 低炭素、気候変動影響に対応する強靱な都市開発・インフラ投資推進

経済成長が著しく、インフラ建設需要の膨大な開発途上国で、今後建設が加速するインフラを低炭素で強靱なものにしていくことを支援しています。

2. 総合的な気候リスク管理の強化

気候変動の影響は、あらゆる場所で顕在化しつつあります。将来の気候リスクの予防・削減に重点を置いて、防災、食料安全保障、水などの分野で総合的な気候リスク管理の支援を実施しています。

3. 開発途上国の気候変動政策・制度改善

気候変動は長期的な対応が不可欠であり、開発途上国が自ら対策を立案し、実施・モニタリングを経て改善していく力を獲得することを支援しています。

4. 森林・自然生態系の保管理強化

森林・自然生態系の劣化・消失を伴う森林伐採・土地利用変化に起因する温室効果ガス(GHG)排出は、世界の人為的累積GHG排出量の約3割を占めるとわれています。JICAは、例えばコミュニティによる森林管理能力強化を通じた持続可能な森林保全・利用の促進などの取り組みを進めています【→P.38事例を参照ください】。

事例

サヘル・アフリカの角
砂漠化対処による
気候変動レジリエンス強化
イニシアティブ



アフリカ諸国の砂漠化との闘いを 開発パートナーが連携して支援

開発課題が山積するサヘル・アフリカの角地域では、人々の自然資源への依存度が高く、干ばつや砂漠化は地域の水不足や環境劣化に加え、貧困をさらに悪化させています。また、これらの地域の貧困は難民の増加や暴力的過激主義などの要因ともなり、世界の不安定化にもつながっています。さらに、干ばつや砂漠化の影響を受ける地域は気候変動に脆弱であり、気候変動は砂漠化をより加速させ、同時に砂漠化は気候変動の要因ともいわれています。砂漠化への適切な対応は、地域の気候変動に対するレジリエンス(強靱性)を強化するとともに、地球規模の気候変動への対策としても喫緊の課題です。

JICAは、2016年8月にナイロビで行われた第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)で、国連砂漠化対処条約(UNCCD)事務局、ケニア・セネガル両政府と共に本イニシアティブを立ち上げました。アフリカの国々のオーナーシップと、JICA、国連食糧農業機関(FAO)、地球環境ファシリティ(GEF)といったパートナーとの連携により、対象国のネットワーク化、知識共有、開発資金へのアクセス改善を通じて砂漠化対処を促進することで、地域の貧困撲滅や持続的な開発と、世界の安定化に向けた取り組みを強化していきます。



TICAD VIのサイドイベントでは、砂漠化対処における課題や本イニシアティブの推進に向けた方策について議論した